

## 第2学年 道徳科学習指導案

第2学年2組（於2年2組教室）  
指導者 松村 慎哉

- 1 主 題 「水平社宣言に学ぶ」
- 2 資 料 名 「水平社宣言を立ち上げた人々」
- 3 主題について 日本では約100年前に差別について声を上げた「水平社宣言」がある。差別に立ち向かった当時の人々の思いや行動に触れ、差別とは決して許されるものではないと意識づけることができる。宣言がされてから100年もの年月が経つが、今なお残る様々な差別について考え差別に屈しない強い心を養う。
- 4 ね ら い
  - ・水平社宣言と歴史について知り、差別がある事の悲しさ、残酷さについて知る。
  - ・人の価値に違いはなく、みな平等に「生きている事」がすばらしい事を感じさせる。
  - ・これから出会うかもしれない差別に立ち向かう気持ちを養う。
- 5 人権教育の内容 差別と人権問題についての学習2－（2）－ア
- 6 本時の展開（1／1）

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○ 「君、想像したことある？」の感想について考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に行く道徳「君、想像したことある？」のクラスの感想について考える。</li> <li>・差別は人が勝手に始めた事だと理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を紹介する。</li> <li>・人の「価値」に違いはない事をおさえる。</li> </ul>	
展  開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○ 「水平社を立ち上げた人々」の映像を見よう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平社立ち上げの歴史や、水平社宣言がされたいきさつについて知る。</li> <li>・差別の起源を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を見て水平社と水平社宣言について考えさせる。</li> </ul>	
開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○水平社宣言に込められた思いについて考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平社宣言の現代語訳を読み、一番伝えたい思いに線を引く。</li> <li>・近くの人と意見交流をする。</li> <li>・水平社宣言を立ち上げた西光万吉が語った思いを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水平社宣言の原文と、現代語訳を配布する。</li> <li>・「どこに引いたか」「どんな思いを伝えたかったと感じたから（理由）」</li> </ul>	
開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○ これから差別に出会ったら、あなたならどうするか考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから部落差別に限らず出会うかもしれない差別について、自分ならどう考え行動していくか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差別は今もなくなっていないことを確認する。</li> <li>・差別される側が悪いのではなく、する側が間違っていることを確認する。</li> </ul>	
ま と め	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○ 本時の感想を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめ、感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに感想を書かせる。</li> </ul>	

[別紙②]

【水平社宣言に学ぶワークシート】

## 水平社宣言に学ぶ

( )組( )番 氏名( )

○水平社宣言に込められた思い ～1番印象に残った言葉～

言葉(文章)： \_\_\_\_\_

思い→

○これから差別に出会ったらあなたはどうしますか？

○本時の感想

### 生徒の感想【君、想像したことある？】

- いじめは絶対に許さないし、見て見ぬふりをするのも加害者側になってしまうから、自分がいじめを見たときには、絶対に被害者に寄り添いたいなど強く思ったし、自分がすることや、言動とかをすべて正しいことなのかっていうのを考えてから行動したいです。
- 私はこの授業で、いじめの怖さと重さを改めて感じました。やらないのが1番だけど、周りの人がどの立場に立つのかもとても大切になってくると思いました。止めるのにも、いじめのターゲットが自分に変わる怖さがあるけど、その勇気が被害者の子を救うので、一言一言の言葉の意味や行動の意味をちゃんと理解したうえで友達関係を築くことが必要だと思いました。一人ひとりの人権を大切に尊重していきたいです。
- 人のことを差別や敵対するのではなくその人の性格などを理解し、相性が悪いとしてもそれを納得し、みんなで分かり合えるように努力することが大切だと学んだ。どこであつても、どんなことであつてもいじめはしてはいけないし、している人がいると止めないといけない。いじめられる側の気持ちをしっかり考え、いじめをなくしていきたいです。
- いじめは、自分の気持ちはもちろん、人の気持ちを大切にしていくことが根本を断つことになるのだと思いました。周りにいて見ている人やその状況に気づいた人は、いじめている人に、自分のしているその卑劣な言動を伝えてあげることが不可欠だと思います。いじめをしている人は自分の行為にきづいていない人が多いと思うので、それをわかってもらうために、傍観者にならないように第三者の言葉を大切にしたいです。いじめそのものをなくすには、一人ひとりの気持ちを大切に生きていく社会を実現していく必要があります。
- 今回の授業で、私もいじめられる側の人間だから共感できる部分がたくさんありました。私の友達には、「いじめられる」と悩んでいる人がいて、その子の心を癒すのは難しいけど、ずっと近くにいると、「ありがたう、頑張れる。」と言ってくれます。私を頼ってくれる人がいるから、私は私にできることをしていく。周りにこれを伝えられるようにして、私と同じような考えが広がっていくと少し良くなっていくのかなと思いました。
- 「想像」すること。「共感」すること。「意志」を強くもつこと。「意識」すること。これらによって保身を越えて、正義感を持っていじめの問題と向き合えるのではないかと考えました。見ていて止めなかった人もいじめっ子と同じだとこれまで学んできたけど、「加害者」という言葉が隣り合わせだということを確認意識したのは今日の授業が初めてでした。今日の授業を受けて、いじめの渦に飛び込んでいける勇気を少しもつことができました。
- いじめは単純なようで、とても複雑なもので、簡単に考えれば考えるほど必要なことがあふれ出てくる。私自身、言葉では言い表すことはできるけど、人に与えられた人権を行動で守り、守られ合い、優しい人になれていないなと実感しました。今日の授業でたくさん想像して考え、気付くことができてよかったです。これからは行動にあらわしていきたいです。
- この授業を通して、私も気付かないうちに人を傷つけてしまったのではないかと怖くなりました。人は価値観や考え方がそれぞれ違うので、いじめられたと思ってしまったらいじめだということは個人的に正しいと思いました。いじめは人の人権を奪ってしまうという考え方がしっくりきました。いじめている人は無意識で、もしかしたら悪意がないかもと考えるといじめをなくすのは本当に難しいし、勇気があることだと再確認できました。

### 生徒の感想【水平社宣言に学ぶ】

- もし自分が差別する人、される人を見つけたら、自分で考えた上で最後の“人間に光あれ”の光は今までの宣言の文でどれだけ暗い人生の中にいるかを描いていたのでその暗い中1つの光のような存在になれるように差別される人を助けることができればよいと思います。
- 自分も勇気を出して、自分の考えを伝えるだけじゃなくて、行動していかないとと思いました。自分が楽しかったらいいとか、自分のことしか考えていない人間になるのではなく相手の気持ちを考えて1人ひとりの人権を大切にできる世界にしていきたいと強く思いました。
- 100年以上前に、世の中がまだ差別を理解していないころに、未来を変えようと立ち上がった水平社の皆さんはすごいと思いました。人は哀れんだりするのではなく、尊敬するものだという考えは素晴らしいものでした。しかし、今も差別は完全になくなっていません。今を生きている僕たちの意識が大切になってくるのだと思いました。

- 私は水平社宣言を聞いたことはあったけど、具体的にどんなものかは知りませんでした。でも部落のようにその人自体は何もしていないし、同じように幸せを感じているのに、差別の対象となるのが不思議でした。もし私が差別の場と出会ったら、そう考えると意外と答えが出てきませんでした。たぶんまだ勇気がないんだと思います。そんな勇気をつけたいです。
- 身近にあることだからこそ余計つらかったけど、でも目をそらしてはいけなから、この問題にしっかりと立ち向かって考え、行動しないといけない。差別のない世界にするためには、誰もが「みんな同じ人間だ」という意識、「尊い命なんだ」ということを肝に銘じないといけないと思いました。そして、差別する側に回らないために、常に考えないといけない。それに、しっかりと物申せる心、勇気が大事だということ。世の中を変えたいのなら、友達のために、私の大事な人のために「今」私ができることをしたいです。
- もし差別されている人がいたら、もちろん助けたいと思うし、1番はそういうのがなくなってほしいです。なくなるためには、1人の人が頑張るんじゃなくて、全国の人が1人1人、“差別はいけない”と思い、行動した方がいいと思いました。近くの人が差別されていたら、話を聞いてもらうだけでも少しは不安じゃなくなると思うので、相談にのってあげたり、話を聞いてあげたりしたいです。
- 水平社の取り組みを知って、その勇気と頑張りに感動しました。差別される家庭で生まれたことを公開することで、より状態が悪化する可能性があるのに、それに負けずに同じ環境で育ってきた仲間たちと団結することで、世の人々を振り向かすことができ、今日までにつながったと思います。また、仲間を兄弟と呼べるみんなとのきずなも102年という歴史も自分の心にすごく残りました。
- 私がもし差別にあったら、水平社宣言を使った方みたいに強く生きていけるようになりたいです。差別をされたらすごく悲しいし、つらいので、誰かに助けを求めるのも大事なのかな？と思いました。プリントに書いてあるように“人の世に熱あれ、人間に光あれ”のように強くなってほしいし、光になるのはとても大切なことだと思いました。みんな一人ひとりが光になれる世の中になればいいなあと思います。
- 今までの自分だったり、見てる側でもやられている側でも行動にできないと思います。だけど、今日水平社について学び、差別されている人を救う、100歩前進するようなことを行動に移していたこと、子どもや大人、いろんな人が子どもだから、大人だからという固定概念をもたずに平等だったことは、私にとって深く心に刻まれました。最初からできないではなく、やり切ろうという信念の強さ、覚悟が私にはまだなく、その大切さを学んだ気がします。最初から100歩前進を目指すのではなく、1歩ずつの声かけや行動を大切に生活していきたいと思いました。
- 人の価値はみんな同じなので、みんなが平等で生きていいはずなのに、それがほかの人によって潰されるのって本当によくないし、あってはいけないことだなと思いました。自分たちとほぼ変わらない年で演説して意見を言える人がいたと知って、すごいなと思いました。自身をもって「差別はいけないこと」ととめれる人になりたいです。
- 差別は人の価値を差別しているから、そのしている人たちがすべての人の価値は平等だとわからなければなくなれないと思います。地域の差別があったということに驚きました。地域差別も、男女差別も見たい目や場所で価値を決めてしまっているから、自分の価値は自分で決められるような世界になってほしいと思いました。
- 授業のはじめは、差別・いじめはダメだと簡単に言えていたけれど、終わってからはつらい思いをして生きてきた人の気持ちを今まで以上にわかった。差別やいじめをなくすには、呼びかけも必要だけど、一人ひとりの意識も必要じゃないかなと思った。
- 私たちの祖先は、差別をだめなことだと受け取って行動を起こしていてすごいなと思いました。差別する人にわかってもらえること、差別される人が自分を大切にすること、どちらも大事なんだなと感じました。
- 私はまだ差別をされたことがないし、見たこともないから、実際に受けている人の気持ちは分からないけど、受けている人の立場になって考えてみると、つらくて苦しいと思いました。なので、そんな目にあったり、見たりしたときは、勇気をもって「それはいけないこと」と言えるようになりたいです。
- 水平社として立ち上がった人たちは声を上げるのにすごく勇気がいったと思うし、自分が差別されている人だとみとめることってすごく怖かったと思います。だから、水平社宣言を発表して全国にそれがどんどん広まってって理解されたのはとてもうれしかったと思うし熱い気持ちがあったと思うので、今度は私たちはその火をたやさずに、差別をなくしていこうと思います。

- どこに行っても差別されていやな思いをしている中で同じ思いの人が集まって世間に対抗しようとした勇気がすごいと思いました。
- 人の価値はみんな同じだと思うし、差別するのはやっぱりおかしいと思った。差別に立ち向かうために自分の意思を強くもち、それをつらぬくことを大切にしていけばいいと思う。
- 今でも差別があるのはとても悲しいです。いつか「人間の世の中のぬくもり」と「新しい時代への希望」があふれて差別なんてない、誰でも生きやすい世界ができればいいなと思います。

#### 教師のふり返り

- 人権学習に取り組んでみて、普段の道徳とは違った観点から、子どもたちの深いところでの思考にふれることができた。子どもたちは子どもたちなりによく考え、経験を積み上げてきている。表面的にはまだ幼さが残っているが、人権感覚は鋭いものを感じられた。それを日常の学校生活にどう生かしていくか、教師側の力量が試されていると改めて感じる良い機会となった。
- 人権教育に取り組むと自分も勉強不足だと実感しました。より生徒にとって大切な学びとなるよう、まずは教師がさらに詳しく人権について考え、生徒にさまざまな角度から考えさせられる学びの引き出しを多くつくっておくことが必要だと感じた。
- 今回は学校あげて人権教育に取り組んだが、常日頃からもっと人権に関する学習を進めていけばほかの教育活動にも効果的だと再確認した。しかし、カリキュラム上人権学習に時間を割くことは難しいため、普段の授業や学校行事、道徳の際などに人権の視点から考える時間・内容をとっていても面白いだろうといえる。
- 子どもたちが真剣に考えている様子があった。差別はダメという一面的なものではなく、差別について多面的に思考を巡らせていた。考えれば考えるほど難しい問題で悩んでいる様子も見られた。その思考の過程が子どもたちにとってとても大切な時間だったのではないかと思えた。人権学習は多くの気づきが得られ、非常に良いものであると感じた。